



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
           益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
           (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
                   Cypress, CA 90630

石 叫 石

◎石叫 ■ 「良い思い出」

日本のホーリネス教団から毎月、機関紙『りばいばる』が送られてくる。そこに教団委員長、郷家一二三先生の「委員長発信」というコラムがあるが、そのタイトル「良い思い出」が心に響いてきた。今回はそれを紹介しよう。

「哲学者の今道友信氏は「人生の贈り物・4つの物語」(かまくら春秋社)の中に、忘れられない教師との出会いを語っている。第2次大戦後間もなく、パリ大学の講師としてフランスに行った今道先生は、哲学者のガブリエル・マルセルと出会う。そして別れのお茶の時にこう聞かれる。「ムッシュ・イマミチ、これからは君と会えなくなるけれども、人間が他の人間に贈ることのできる最大の贈り物は何だと思いませんか」。今道先生が一生懸命考えて答えても、どれも「違う」と言われてしまう。マルセルは、「それは『良い思い出』です。良い思い出を人からもらうようにしなさい。それと同時に、良い思い出を人に与えるような人間になりなさい」と語り、「物はいつかは壊れ、色あせるが、良い思い出は逆に一生続き、語り継ぐなら、他の人にも良い思い出となり心に残るでしょう」との言葉を贈る。哲学者マルセルとの最後の別れも、良い思い出として贈られ、受け取られたものとなる。私にもたくさんの良い思い出があるが、十八歳の時、教団年会の聖会で、救い主イエスに出会い、信じ受け入れることができた思い出に勝るものはない。神のひとり子である主イエスが、人となってお生まれくださったクリスマス。ひとりひとりに最大の贈り物が与えられ、この救い主と出会うなら、これ以上の良い思い出はない。だれかが良い思い出をもらえるクリスマスとなり、だれかに良い思い出を与えるクリスマスとなりますように」

詩篇三七篇6節に、「もしわたしがあなたを思い出さなければ、もしわたしがエルサレムを、わが最高の喜びとしないならば、わが舌をあごにつかせてください(自分を呪うの意)」とある。これは紀元前6世紀にイスラエルがバビロンに捕囚となった時のものである。思い起こすのはかつてのエルサレムでの神の豊かな愛の恵みであり、それが今も人生最高の喜びだという内容である。  
 仮に私たちに人生の最後が来たとしても。残された者たちと語ることと言えば、それは良い思い出であり、神によって与えられた来世への希望ではあるまいか。神なくして良い思い出はないし、それは今わの際でも輝く希望である。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。  
 私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョン・ウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

